



川中だより

令和4年5月27日(金)発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第2号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<http://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

校長のたまてばこ

校長 長井 稔



五月は二王子岳の草木が青々とし、加治川の水面が煌（きら）めく、川東の自然が最も映える月の一つです。残雪から雲沸く二王子岳、暖かな陽の光、そよぐ風、川のせせらぎは元気の源と言えます。

旧暦の和風月名は、「皐月（さつき）」です。

これは、早苗を植える「早苗月（さなえづき）」が略されて「さつき」となり、後に「皐月」の字があてられました。「皐」という字には水田という意味があります。

いわゆるゴールデンウィークの大型連休では、川東地区のあちこちで田植えが行われていました。皐月の風物詩となっている光景に、生徒の皆さんが一生懸命に手伝っている姿が重なります。植えた苗がすくすくと稲となって穂を垂らす様に、生徒の成長を願います。

季節の移り変わりは早く、桜の花もあっという間に散ってしまいました。

季節の変化は太陽の動きが影響します。

和風月の他に、季節の変化を取り入れたのが「二十四節気」※1という指標です。

そのうちの一つである「立夏（5月5日）」は、夏の訪れを示すものです。

この日から本格的な夏の到来となる「夏至（6月21日）」を経て、秋の訪れを示す「立秋（8月7日）」までが、旧暦では夏となっています。

「立夏」を迎えたふるさと川東の約21キロメートルを自分の足で歩く行事が、今年で6回目となる創立記念行事「川東中ふるさとウォーク：5月9日（月）」※2です。

友と一緒にゆっくりと歩きながら、ふるさとの良さを自分の五感で受け止めて欲しい。

目で見て、耳で音を聴いて、鼻で匂いを嗅いで、肌で風を受け、心で感じる「五感」を働かせて、良さや産業を再発見し、雄大な川東の自然や恵みに感謝する「豊かな心」を育てる全校行事です。

今年もゴールとなる生徒玄関で、励まし合って歩いた満面の笑みと引き換えに、完歩・努力の証書を渡せることを願っています。

「早苗田を 同行二人 帰校せむ」

※1 令和4年度の二十四節気

清明（せいめい4月5日）・穀雨（こくう4月20日）・立夏（りっか5月5日）・
小満（しょうまん5月21日）・芒種（ぼうしゅ6月6日）・夏至（げし6月21日）・
小暑（しょうしょ7月7日）・大暑（たいしょ7月23日）・立秋（りっしゅう8月7日）・
処暑（しよしよ8月23日）・白露（はくろ9月8日）・秋分（しゅうぶん9月23日）・
寒露（かんろ10月8日）・霜降（そうこう10月23日）・立冬（りっとう11月7日）・
小雪（しょうせつ11月22日）・大雪（たいせつ12月7日）・冬至（げし12月22日）・
小寒（しょうかん1月6日）・大寒（だいかん1月20日）・立春（りっしゅん2月4日）・
雨水（うすい2月19日）・啓蟄（けいちつ3月6日）・春分（しゅんぶん3月21日）

※2 川東中学校の歴史

1947年5月1日創立、翌5月2日開校（75年前）。

「川東中ふるさとウォーク」は、「しばたの心継承プロジェクト」とリンクしています。